

アラブ首長国連邦における連邦立大学の内部質保証

— UAE大学を事例として —

中島 悠介

はじめに

高等教育の重要性に対する認識が世界的に高まり、急速に拡大が進行する中、大学の質をいかに保証するかという問題は先進国、途上国問わず重要な関心事となっている。本論文で取りあげる中東湾岸地域においても急速に高等教育セクターが拡大している一方、その質をいかに保証するかが模索されている。例えば、RBAS (Regional Bureau for Arab States of the UNDP) が主導となり、中東湾岸地域における質保証システムの開発プロジェクトを実施しており、大学数校を指定して試行的に大学評価をはじめとした質保証の仕組みを構築してきた。また第三者質保証機関として、オマーンでは1999年にOAAA (オマーン学術ア krediyetasyon 機構) が、サウジアラビアでは2006年にNCAAA (学術ア krediyetasyon・評価国家委員会) が設立されるなど、各国で大学の質を評価する取り組みが実施されている。2007年にはアラブ地域の質保証ネットワークとしてANQAHE (Arab Network for Quality Assurance in Higher Education) が設立され、ワークショップ等を通して優良事例の共有や評価者への研修が行われてきた¹。

本論文で取りあげるアラブ首長国連邦 (以下、UAE) で1977年に初めて設立された大学であるUAE大学 (United Arab Emirates University) においても同様に、その質をいかに保証するかが模索されている。様々な国で第三者質保証機関が設置され、高等教育機関の質保証の取り組みが実施される中、UAEにおいても1999年に連邦政府の高等教育科学研究省がアカデミック・ア krediyetasyon 委員会 (Commission for Academic Accreditation、以下、CAA) を設置し、民間高等教育機関を対象に機関の設置認可とプログラムの適格認定を義務づけている。2013年時点では、78の民間高等教育機関がCAAより適格認定を受け、プログラムを提供している²。しかし、国家が設置している連邦立大学 (Federal University) はこうした第三者質保証機関による評価が適用されず、大学が独自にその質を保証する取り組みを行なっている³。連邦立大学はUAE大学、ザイード大学 (1999年設立)、高等技術カレッジ (1988年設立) の三大学が該当し、UAEの高等教育において中核的な役割を担っている。UAEの連邦立大学に対してCAAの評価が適用されない理由を体系的に述べている研究は見当たらないが、筆者がこれまで行なってきたインタビューでは、連邦立大学は国家により設置され、また比較的歴史が長く、国家や国民より信頼を得ているため、とされている⁴。多くの国々で第三者質保証機関による評価を通した質保証システムが構築される中、UAEの連邦立大学ではその質を保証するためにどのような取り組みが行なわれているのだろうか。以上の問題関心から、本論文ではUAE大学を事例として、連邦立大学の内部質保証の仕組みを明らかにすることを目的とする。

UAE の連邦立大学に関する先行研究は決して多くはない。Khalafat (1992) は UAE 大学が設立された 1977 年から 1987 年の 10 年間の UAE 大学の展開を追っている⁵。また、Abbas (1989) は UAE 大学の設置に関する法律とガバナンスの構造を取りあげ、UAE 大学が国家と強固に結びつき、アラブ・イスラーム文化を涵養する役割を果たすとともに、人材育成という西欧の価値観を同伴させた機関として考察している⁶。UAE 大学の質保証については工学分野の専門アクレディテーション団体である ABET⁷による評価を取りあげたものが見られるが、2000 年以降、連邦立大学として実施されている質保証の動向を分析した研究は見当たらない⁸。

以上の目的のため、第一章で UAE 大学の権限構造と発展戦略の動向について確認する。第二章で UAE 大学の質保証の中心的な役割を担っている IEPSU (Institutional Effectiveness and Planning Support Unit) の機能を取りあげ、第三章では各プログラムを評価するために近年整備が検討されている PPR (Periodic Program Review) の特徴を分析する。そして第四章では、他の中東湾岸地域の国々の状況に照らしつつ、これらの動向について考察する。

本論文における用語について、『高等教育に関する質保証関係用語集』を参考に、「内部質保証」は「高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、これによって、その質を自ら保証することを指す」こととする。また、「外部評価」と「第三者評価」の違いとして、外部評価は「学外の評価者によって行われる評価。第三者評価との違いとして、評価者及び評価項目が評価対象機関によって選定される」ことに対し、第三者評価は「評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等に従って行われる評価」として統一する⁹。

1. UAE 大学の発展戦略と質保証

本章では UAE 大学の権限構造を整理し、発展戦略における質保証の位置づけを検討する。「UAE 大学の設置と規則に関する連邦法 (1976 年第 4 号)」によれば、第二条において「UAE 大学は人間の思考の尖塔であり、土地固有の要素を維持し、遺産を研磨することを通して、人材開発を進展させ、文化的ルーツを深め、社会を進展させるための先導的機関である」とされている。第三条では大学の目的がまとめられ、「大学は文科と理科の専門科目における文化的・学術的研究に関し、また他の知識の様相における専門家や技術者の質を向上させることを追求し、イスラーム的価値観、アラブ的源流と科学的発展を基盤とした人間の科学的個性を形成するものである」など、イスラーム的価値観、アラブ・オリジナリティを基盤とした人材開発やイスラームコミュニティへの貢献など、イスラーム文化への配慮が示されている¹⁰。

UAE 大学は 1977 年に人文科学カレッジ、科学カレッジ、教育カレッジ、ビジネスカレッジの 4 学部から開始され、1978 年にはシャリーア法学カレッジが、1980 年には農業科学カレッジと工学カレッジが設立されている。続いて 1986 年には医学・健康科学カレッジが、1991 年には科学カレッジにおいて初めての修士課程が設置された¹¹。2010 年の学生数は 12,279 人であり、そのうち UAE 国民が 75% を占めていることから、国民が全人口の 11% ほどである国民マイノリティ国家でありながら、多数の UAE 国籍の学生が UAE 大学に在籍していると言える¹²。

この一つの要因は UAE 大学が国民に対する石油収入の分配という福祉的な役割も備えているためであり、具体的には入学費・授業料 (学部段階に限る)・教科書代の無償、居住施設の無

償という形で実施されている。大学の予算は理事によって編成され、後述の大学審議会によって承認されるが、大学の予算は連邦予算の中に組み込まれる¹³。

UAE 大学の統治機構についても上述の連邦法において定められている。最高意思決定機関として大学審議会が設置され、大学の方針策定、経営・組織に関する規則の策定、年間予算、学部の新設や改編などについて最終的な責任を負っている。審議会の議長にはシェイク・ハムダン・ビン・ムバラク・アル＝ナヒヤーン高等教育科学研究大臣が、委員には閣僚大臣、経済大臣、教育大臣などが就任している。また、大学審議会の議長を担うナヒヤーン高等教育科学研究大臣は大学総長も兼任しており、大学と国家の間に密接なつながりが形成されている¹⁴。

そして近年大学の発展戦略が急激に変化しつつある。その変化を顕著に表しているのが 2008 年に教務部長に就任した、カリフォルニア大学の前教務部長である Rory Hume が打ち出した「5 年間で UAE 大学を世界ランキングトップ 100 に」というスローガンである。これは学部教育が中心の UAE 大学を研究型大学へ転換することを目指している。2012 年までに UAE 大学初となる博士学位プログラムの設置、研究資金の増加、水理学のプログラムの設置などに尽力し、QS World University Rankings では 2010 年に 372 位、2011 年に 338 位へランキングが上昇した¹⁵。

このような研究型大学へ転換する手段として、2008 年に発行された「2008-2012 UAE 大学戦略計画」では UAE 大学の質保証にも触れられている。そこでは「すべての学術プログラムが国際的な適格認定を獲得する」「少なくとも、5 年ごとに国際的なベンチマークに対してすべての学術プログラムを評価する」「国際的に卓越した実践や、卒業へむけた学生の発展の一貫性を保証するために、少なくとも 5 年ごとに学部プログラムの構造（一般教育、専攻、卒業要件など）を評価する」など、質保証の取り組みを充実させることに言及されている。また、大学院教育についても、学生の増加や学費等の援助の充実に加え、「国家的な需要、学生の需要、プログラムの質を少なくとも 5 年ごとに評価を行なう」ことなどが明記されている¹⁶。

こうして UAE 大学では質保証の重要性への認識が高まっており、現在は主に 3 つの部局が連携して質保証業務を担っている。それは「指導・学術卓越センター（Center for Excellence in Teaching & Learning、以下、CETL）」「学術質保証事務局（Academic Quality Assurance Office、以下、AQA 事務局）」「機関実効性計画補助部門（Institutional Effectiveness and Planning Support Unit、以下、IEPSU）」である。CETL はメディアの活用や遠隔プログラム教材の整備など、各プログラムの技術的なサポートを担っている。IEPSU は 2006 年に設置された部局である。詳細は第二章において取りあげるが、主に大学全体の IR（Institutional Research：機関調査）の機能を担っており、大学副総長直属の機関として大学全体の計画策定に、より直接的に取り組んでいる。AQA 事務局は 2012 年 8 月に設置された部局であり、指導、学習、研究、学問のための環境や、コミュニティと社会へのサービスの改善を促進することを目的としている。

以上をまとめると、UAE 大学はイスラーム文化や知識の涵養の場として設置され、予算面や組織面で国家と強固に結び付いていることがわかる。また近年は大学のプレゼンスの向上が目指され、その手段の一つとして質保証の仕組みの構築にも焦点が当てられている状況にある。

2. UAE 大学における高等教育質保証の構造

本章では、UAE 大学の質保証において中心的な機能を担っている IEPSU を取りあげ、イン

タビュー等をもとにどのように運用されているのかについて明らかにする。

(1) Institutional Effectiveness & Planning Support Unit (IEPSU) の機能と役割

現在 UAE 大学の内部質保証において中心的な機能を担う機関は IEPSU である。IEPSU の目的は 10 項目にまとめられているが、質保証に関して主に第二項と第七項に述べられている。第二項で「プログラムやサービスの質、計画策定、学生の学習成果などに関する多様な評価活動

表1. 2008－2012年戦略計画指標

戦略目標	構想	指標
学生の中心性: 大学において学生が中心に位置づけられるための取り組み	学生の成功や学習を促進する組織構造や方針を、大学規模で作成する。	CASの基準と国際的に卓越した実践に沿って評価され、改訂される学生関係事務方針の割合
	国際的に認められた水準に沿って、学生の居住や学習プログラムを作成する。	男性の居住に対して設計され、実行されるパイロットプログラム 女性の居住に対して設計され、実行されるパイロットプログラム 居住プログラムに対する学生の満足度
	学部を基盤にした学生の活動や、組織の発展を促進する方針と手続きを開発する。	学生の活動促進のために提供される機会への学生の満足度
	学生にとって生産的で、楽しく、親しまれる環境として、UAE 大学を発展させ、設備を提供する。	2010年までに、イスラムキャンパス(男性)でウェルカムセンター、情報センターを開設する。 2010年までに、マカームキャンパス(女性)でウェルカムセンター、情報センターを開設する。
		初学年の学生の満足度の割合
国際的に認められた基準を満たす、もしくは超えるような高品質の教育を提供する	定期的な大学のカリキュラムの評価および改訂	毎年評価されるプログラムの割合
	様々な学習経験の学生への提供	小規模の学習センターの数 交換プログラムや奨学生プログラムを利用して海外で勉強している UAE大学の学生数
	学生の学習を補助する観点からのカリキュラムの強化	カリキュラム外で学生に提供されるプログラムの数 発展的・継続的教育プログラムが2010年までにそれぞれ20%増加
	大学院教育の向上	学生留学プログラムへの学生の満足度 新しい、もしくは継続的な修士学位プログラムの数
	学術的な質を改善するために、入学に関する業務を効果的に運営する	学生数の増加 2010年までに、少なくとも2つの博士プログラムのための計画を策定し、完遂する 2009年1月15日までに包括的な新入生入学計画を達成する
社会的な問題への解決方法の継続的な追究と、知識の社会への移転を通じた地域的、国際的なパートナーシップの向上	遠隔教育 公開講座、その他従来の形態に当てはまらないコースやワークショップの提供	大学外のコミュニティに対して提供されるプログラムの数
	公的、民間、および他の機関との研究協力を発展させる	研究やコンサルティングサービスへの要請の上昇率について、最低でも累年で1%を維持する。
	大学の専門性を社会へ共有する	UAEコミュニティに対して提供されるプログラムの数(コンサルティング、ワークショップ、継続教育コース)
最前線の研究において、創造性と生産性を高レベルで達成、維持すること	研究およびスラッシュの量的、質的向上	権威のある雑誌への研究報告の数
	学部および大学院での研究経験の向上	研究および会議へ参加する学生数
	強みのある分野における、卓越した研究センターの設立	研究所の数
内部および外部の資金源の多様化	大学に近代的な研究設備を備えさせる	研究設備への満足感を示す割合
	政府の基金の最大化	研究設備への満足感を示す割合 首長国や連邦政府から受ける資金の総量
	大学の高度な機能の確立	政府から受ける研究関連基金 より高度な機能の実現を目指した新しい組織構造 寄付関連研究の推進
質の高い大学教員および職員の採用、雇用、開発、維持	財政資源の効果的な運用	計画された予算について、効率性・有効性が達成されるプログラム及び、達成されたイニシアチブの観点からの経費節減の割合
	大学教員及び職員の雇用プロセスの改善	雇用プロセスに対する新規雇用者の満足度 採用プロセスにおける運営において、プロセスに対して80%の満足感が示される。
	リーダーシップ開発、訓練、再訓練、再配置に力点を置くエミライティゼーションプログラムを設立する	様々な職業分野におけるエミライティゼーション(労働力国民化)の割合(首脳部、管理職、役員、専門職および技術職) UAE国籍の教員および職員に対して提供される訓練機会
明確なビジョンとミッションを展開し、それを大学教員、職員、学生そしてコミュニティに対し、一貫した方法で伝達する。	大学教員の資格改善に関する包括的計画を実行する	1年間で大学教員及び職員に提供された職業開発機会の数
	すべての教員および職員への業績評価認識システムの確立	2010年1月より実施されている業績評価システム
	意思決定過程における教員および職員の参加の向上	意思決定過程への参加に対する学部および大学教員の満足度
すべてのサービスが高品質、効率、透明性を維持し、適時性を備えていることを保証する	大学のアイデンティティの構築	明確な調査
	市場の需要を満たすために総合的な計画を開発し、実行する	明確な調査
	国際的に認知された水準に対する、サービスの実績	国際的な基準およびUAE大学の質保証モデルに対して、業績を測定するための重要業績評価指標を持つサービスの数
	すべてのプログラムおよびサービスの質保証評価の実行	完全な質保証サイクルを実行しているプログラムおよびサービスの数
	すべての管理運営を通じた消費者サービス文化の醸成	サービスの質に対する消費者の満足度

出典: Strategic Plan Indicator, Institutional Effectiveness Planning and Support Unit, 2010より筆者作成。

において、大学の利害関係者を補助する質保証プロセスを構築する」と述べられ、第七項では「財務省や高等教育省が求める新しい実績やアカウンタビリティの水準へ UAE 大学が応じる際に、首脳陣を補助する」と述べられており、管轄となっている高等教育科学研究省や資金源となっている財務省へアカウンタビリティを果たすことに貢献することが意図されている¹⁷。

IEPSU の機能は①知識の運用、②実績の卓越性、③戦略計画と方針開発、④適格認定の4つであるが、質保証に特に深く関わるのが②実績の卓越性と④適格認定である。②実績の卓越性においては、1つ目の機能として、「UAE 大学におけるすべてのプログラムと経営部門が継続的な質改善に組み込まれることを保証する。また、学生の学習成果、学生と利害関係者に焦点を当てた成果、予算的、財政的、市場的成果、労働に焦点を当てた成果、運営面における成果、社会的責任における成果などに関する情報の適切な収集、分析、配布を保証する」と述べられ、プログラムや経営に関して成果に焦点を当てた評価が行われることが強調されている。また、2つ目の機能においては評価サイクルに関して言及されており、「計画フェーズ（大学の戦略計画に沿った指標を定義する。それぞれの指標は実行や測定のために定義されたプロセスを設定する）、実行フェーズ（第一フェーズにおいて開発された計画が実行される）、測定の進行（それぞれの部門の進行が計画において定められた KPIs[Key Performance Indicators]に沿って測定される）、計画の改訂（これまでで得られた情報が、測定や指標における年間の改善につながる計画や方針を改定することに用いられる）」という、計画、実行、測定、改訂というサイクルによって改善が進められることが明示されている。④適格認定については、「学部がプログラムの適格認定を通過させるために、効果的・効率的で意義のある自己評価を実施するサポートをする」として、プログラムや部局の需要に沿ったデータや、適格認定において必要とされるデータを収集し、様々な自己評価をサポートする機能を担っている¹⁸。

表1は2008年から2012年までのKPIsであり、「戦略目標」「構想」「指標」の3つのレベルにおいて提示されている¹⁹。「戦略目標」には学生中心や国際的な基準を満たす教育の提供などが示されている一方、「指標」においては新しく提供されたプログラムの数や、学生や教員の満足度など、数値化された指標が多く提示されている。また、プログラムの質の保証という点では「完全な質保証サイクルを実行しているプログラムおよびサービスの数」「毎年評価されるプログラムの数」など、その内容自体には触れられていなかったり、研究に関する項目においても研究報告数や学生数など数量的な調査にとどまっていたりなど、プログラムにおける質保証の取り組みという点では各プログラムの裁量にゆだねられていることがわかる。

（2）UAE 大学をとりまく質保証の状況

本項では UAE 大学において実施した Ali S Ibrahim 氏と Ramzan Ali Afzal 氏へのインタビューも参考にしつつ、UAE 大学を取り巻く質保証の状況について分析する²⁰。UAE 大学における質保証は、内部質保証と第三者質保証に分類されるが、内部質保証をおこなうのは IEPSU であり、第三者質保証に関してはそれぞれの学部の裁量により、個々のプログラムが専門ア krediyetasyon 団体より適格認定を受けている。そして IEPSU が担うのは「監督」機能として各部局・プログラムによる取り組みをチェックすることであり、一定の水準に対して適格か不適格を判断するような側面は持っていない。この状況は、他の連邦立大学であるザイード大学や高等技

術カレッジにおいても同様であり、連邦立大学に共通した仕組みとなっている。監督機能としての IEPSU による評価において「最も重要なことは、すべての部門が KPIs を考慮した目標を設定し、それらを達成する必要がある」ことであるが、その運用の問題点として2点挙げた。

第1の問題点は、監督機能という目的のためにそれぞれの部門にとってあまり IEPSU の評価が深刻に捉えられていないことである。この点について「IEPSU は UAE 大学の内部質保証機関として機能しているが、設定された目標の達成の成否にかかわらずインセンティブも罰則もないという点で、教員のモチベーションの向上につながりにくい状況にある」と述べていた。また、2点目としては、評価に時間がかかりすぎるという点も指摘されている。一方で、専門アクレディテーション団体から適格認定を受けることについては「適格認定を受けるインセンティブは『成功の賞賛 (celebrate success)』である」として、適格認定を受けることによって、一つの成功として新聞やメディアにより賞賛されることを目的としている²¹。専門アクレディテーション団体による適格認定は「厳しいガイドラインを通過し、審査を経ている」という証明としても重要になるものとして考えられており、また「IEPSU といった内部質保証よりも真剣に取り組まれる傾向がある」。一方で、適格認定に対する社会的評価として、「学生やその親は、大学が適格認定を受けているかどうかということは気にすることはなく、連邦立の三大学については、適格認定を受けていようとも受けていなくても学生が集まる」し、「企業についても、適格認定について特段の考慮を配しているというわけではない」。というのも、「UAE は国民マイノリティ国家であるために、就職には UAE 国民とそれ以外で分類して考える必要があり、UAE 国民については、政府部門への就職において機会が恵まれているため」である。以上から、アカウンタビリティの対象も「学生や親、企業といった社会的な対象ではなく、ガバナンスや予算等に関係する行政組織への側面が強い」とされている。このような特徴は UAE 大学の改革の方針をまとめた『Transforming the UAEU』にも表れている。この文書では、連邦から抛出される UAE 大学の大学関連予算が年々増加していることを理由に政府へのアカウンタビリティを果たすことが強調され、業績をもとにした予算配分システムの構築の必要性が指摘されている。その業績の中には出版物、被引用数、特許数、刊行されたジャーナルのインパクトなどととも、国際的な専門アクレディテーション団体による評価が含まれている²²。

以上をまとめると、UAE 大学では IEPSU を中心として KPIs を設定し、その達成度を監督することで機関の質を保証しようとしているが、結果に対して罰則や褒賞等がないという点で各学部やプログラムではそれほど重視されておらず、大学全体の現状を把握し、機関の計画や方針作成へと利用する役割が強いことがわかる。また、個々のプログラムの評価という点では ABET などの国際的な質保証機関による適格認定を利用し、それぞれのプログラムの名声の獲得に直接的に繋がるという点で内部質保証以上に重視されている。このような UAE 大学における質保証は学生や親、企業といった外部の利害関係者以上に、高等教育科学研究省といった行政機関に対してアカウンタビリティを果たすことが重視されていることが見て取れる。

3. AQA 事務局による Periodic Program Review

本節では、2013年7月に提出された Periodic Program Review (定期プログラム評価、以下、PPR) 草案第六版を手がかりに、UAE 大学の内部質保証の新たな動きについて考察する。

(1) Periodic Program Review の概要

PPRを主導しているのは、2012年に設置された部局であるAQA(Academic Quality Assurance)事務局である。AQAとは「学位プログラムや教育実践、大学資源を改善するための指標を特定し、実行するために設定された学部主導の研究サイクルである」とされ、その目的を果たすための取り組みの一つにPPRの整備が検討されている。PPRは学生の需要、入学水準、学生の進学・卒業率、教育目標との一貫性、市場の卒業生への需要などの指標をエビデンスとし、個々のプログラムの達成度を包括的に評価する、大学レベルの取り組みである。PPRの目的は「学生中心」「国家的需要への対応」「資格と専門科目の国際的な水準への対応」「卒業生への恒久的な学術資格の提供」などを保証する学術プログラムを提供し、機関のアカウンタビリティや実効性を増進することにある。PPRは6年に一度のサイクルで実施され、全てのプログラムに適用される。しかしABETなどの専門ア krediteーション団体から適格認定を受けている場合、PPRは適格認定の際に実施された評価の直後に実施され、専門ア krediteーション団体への自己評価を一から組みなおす必要はなく、PPRで必要とされる事項を追加することによって対応することが可能である。これは各プログラムにおける評価の負担を軽減するとともに、専門ア krediteーション団体による評価との一貫性を保持することを狙いとしている²³。

PPRの際には評価チームとして議長、外部評価委員、内部評価委員が招集される。議長はUAE大学の副事務局長(Deputy Provost)が務め、会議の運営や評価委員訪問の活動、評価報告書の作成などの責任を負う。外部評価委員は大学外部から10名の候補者がリスト化され、学部長がその中から3名の外部評価委員を選出する。外部評価者の基準には①専門科目における著名な学者、教員、実務家、②適切な専門分野において最高学位(terminal degree)を保持している、③高等教育におけるプログラムの管理職もしくは重要な主導的役割の経験がある、④学生の学習評価、地域的適格認定もしくは専門別適格認定の経験がある、⑤UAE大学以外の学術機関で雇用されており、可能であればそれぞれの学部が基準として認識している機関で雇用されていることが望ましい、などが挙げられている。内部評価委員については、評価が行なわれる学術プログラムの外部のUAE大学の職員から二名選出される。これらの職員は学部において教授の職にある者か上位の責任を負うものとされ、外部評価委員を補助し、全ての評価活動に参加し、UAE大学における経験を議論に反映させる役割を負う²⁴。

PPRのプロセスは、自己評価(Self-Study)、評価委員訪問(Review Panel Visit)、報告及び行

表2. Periodic Program Reviewの自己評価における検討事項		
プログラムの充実度	学術プログラムの評価と発展	戦略的論点
・学生のプロフィール、入学、進級、留年、転学、卒業率 ・大学教員一人当たり学生数 ・インターンシップ、研究、ボランティア、その他大学外のプログラム関連活動 ・大学教員の専門性と現在の学術プログラムとの関係、予期される学術的な変化 ・卒業生のプロフィール(採用率、進学、失業、求職していない人) ・学生、卒業生、雇用者の満足度調査 ・諮問評議会の報告(外部・内部問わず) ・ベンチマーキングとなる活動の結果 ・大学教員のプロフィール ・プログラムへの管理運営面でのサポート。運営従事者の能力開発。 ・図書館、研究室、教室、技術的リソース等の充実度	・コース、プログラム、機関レベルで設定される学習成果に対し、学生の達成度を評価するために、プログラムのチームによって使用される手法 ・プログラムの学習成果の年次評価の6年間を通した結果。少なくとも一つのプログラムの成果が毎年評価されることになる。 ・機関の学習成果の水準の年次評価の結果。 ・評価活動の結果を基盤として開発された行動計画と、行動とそのインパクトのエビデンス ・評価の方法論の効果(effectiveness)の批判的評価	・カリキュラムがどのように国際化されるか ・大学教員の資格改善活動の参加の度合いと改善された学生の学習の関係はどのようなものか ・大学教員はどの程度新しい技術の発展を利用しているか ・大学教員の研究活動と学術プログラムとの関係はどのようなものか ・カリキュラム外活動の学生の学術的成功への貢献は何か ・専門分野ヘインパクトを与える地域的、国際的な動向は何か ・どのようにして部局は新しい大学教員の採用もしくは昇進を行なっているか。 ・どの程度部局は学生のカリキュラム外活動を充実させているのか ・学部、修士、博士プログラムの関係はどのようなものか

出典: Periodic Program Review at UAEU, Academic Quality Assurance Office, 2013を参照し筆者作成

動計画（Post Visit Reporting and Action Plan）から構成される。自己評価は評価委員訪問の前に作成され、訪問の際の参考資料として「プログラムの充実度」「学術プログラムの評価と発展」「戦略的論点」の3項目から構成される（表2）。

評価委員訪問においては、上記で選出された評価委員が実際にプログラムや部局を訪問し、部局における教員、プログラム長、学生、雇用者（職業諮問委員）、同窓会などのテーマ毎にミーティングを実施したり、当該プログラムの授業への査察を行なったりする。評価委員訪問では、現地の査察を通してコースの内容や環境、評価などが UAE 資格枠組み（Qualification Framework Emirates、以下、QFEmirate）で示されている基準につながるものであるかどうかの評価される。「報告および行動計画」では、評価委員訪問の後に評価報告書を作成し、議長へと提出したのち、評価対象のプログラムへと返送される。各プログラムはその結果にもとづいて行動計画を作成し、学部による承認を得た後、最終的に学術評議会へと提出される。この行動計画は経年的な進捗の確認や予算の配分等に利用されることとなる²⁵。

（2）Periodic Program Reviewにおけるスタンダード

前節で取りあげた PPR において参照される QFEmirates とはどのようなものであるのだろうか。資格枠組みとは、職業能力開発総合大学校（2011）の定義によれば、「一定の基準（例えば資格レベル説明指標など）に沿って、特定のレベルの学習成果に適用される資格を分類・開発するための仕組み」であり²⁶、様々な資格に対応する能力を設定し、セクター内もしくはセクター間の資格の関係性を明確化することで教育の質を統合しようとする取り組みである。QFEmirates は UAE において開発された資格枠組みであり、高等教育セクターにおいては CAA による適格認定を通して 2011 年より適用されている。QFEmirates では学習者の成果を「学習者が知識として、もしくは実践として身に着けることが予期される能力、知識、技術」であると定義し、「知識」「技術」「コンピテンシー」の3要素から構成されるものとしている²⁷。

卒業生に付与される資格は、10：博士、9：修士、8：Post Graduate Diploma、7：学士、6：Higher Diploma、5：準学士（4～1は中等教育資格）の10段階に統一され、それぞれに対応

表3: 学士における資格プロファイル

			知識	実践的、理論的な専門知識や、学問分野の境界線を理解し、広範かつ一貫した体系の知識や概念を把握する。職業や学問分野に関連する知識や理論を理解し、限られた資源から体系的かつ一貫した知識・概念を創造したり、複雑な問題への批判的アプローチを理解するのと同様に、関連する規制、水準、規則、因習を含んだ商業的な事例における知識や理論を把握している。批判的分析、研究システム及び方法、評価における問題解決技術、現在および最新の研究、分野外からの概念を統合した知識が含まれる。
			技能	以下を行なうための技術的、創造的、分析的能力 ・学問分野に関連した技術および継続的な議論が適用できる環境において、証拠に基づき、正確な手続きに基づいたプロセスを用いて専門的な問題を解決する。 ・特定の問題の解決へ向けて、調査のプロセスにおいて適切な方法、手続きおよび技術の評価、選択し、適用できる。 ・適切な調査ツールや戦略を評価し、実行する。 ・高度に開発されたコミュニケーションおよびITスキルを用いて、複雑で予期できない事象を表現、説明、批判できる。
学士 (level 7)	コンピテンシー	自発性と責任	以下のために、自発性を伴う責任をもつ ・複雑で予期できない手続きおよびプロセス、資源、学習を評価するための、革新的および高度なアプローチを開発する。 ・予測困難かつ不慣れた環境において、技術的、監督的なプロセスを検討する。 ・個人として、またチームの中でリーダーとしての役割の中で、技術的、商業的な活動に関する環境において効果的、創造的に働く。 ・個人の観点を表現するとともに、社会に対して、社会文化的な規範及び関係に対して責任を持つ。	
		環境における役割	専門的な環境において自発的に行動することができ、下記について、職業横断的な役割を果たし、責任を負うことが可能である。 ・グループや個人の達成度を設定・評価することが可能である。 ・他人や自身の仕事の成果について管理・監督することが可能である。 ・質の高い専門職や、多様で複雑なグループとの関係に参加し、職業的な発展に貢献したり、個人やグループを指導する責任を見極める。	
		自己啓発	自己啓発および下記について責任を負うことができる ・複雑で不慣れた学習環境において、自主的にラーニングタスクを管理し、職業上の実践および開発に貢献する。 ・倫理的な規範を監督することに貢献する。	

出典：Qualification Framework Emirates Handbook, National Qualification Authority, 2012, p.107,147より筆者作成

する学習成果が設定されている。以下、UAE大学で最も多くの学生の割合を占める「学士（レベル7）」を例にその内容を考察する（表3）。

まず、「知識」について、専門の学問分野における実践的、理論的な知識を身につけ、かつ、専門分野以外の知識や概念についても体系的に把握していることが求められている。また、それらをもとにした複雑な問題を解決するためのアプローチや、関連する職業的な事例に関する知識や理論を身につけることにも触れられている。それらに加え、批判的な分析や問題解決技術、専門分野外の最新の知識を有していることが求められている。「技能」では、専門の学問分野で身につけた技術を踏まえて、新しい環境においても正確かつ確立された手続きにもとづいたプロセスを用いて解決することが求められている。また、調査において適切な方法を選択、適用し、評価することにも触れられている。加えて、ITスキルやプレゼンテーションスキルを備え、様々な事象を表現、説明、批判する能力などが求められている。

次にコンピテンシーについてまとめる。「自発性および責任」では、予測できない環境や複雑な問題に対しても、自発的に、かつ責任を持って、高度なアプローチを開発する姿勢を示し、チームにおいてリーダーシップを発揮して創造的に働くことが求められている。また、社会・文化的な規範や関係に対して責任を持つことが明記されている。「環境における役割」では、グループや個人の達成度を評価したり、自身や他人の成果について監督するような役割を担ったり、他のグループとの関係の中で指導的な役割を果たすことについて、自身の専門分野だけでなく職業横断的にその役割を果たすことが求められている。最後の「自己啓発」では、複雑かつ、自身の不慣れな環境においても自主的に学習に取り組み、職業上の問題や実践に貢献する姿勢を養うとともに、倫理的に規範となる人物になることが要求されている。

最後に UAE 大学でこうした学習成果重視の質保証が目指されるようになった要因の一つに、連邦立大学の学生の一般的能力の向上の必要性があったことが挙げられる。前節に取り上げたように専門ア kred i t e e s h i o n 団体による適格認定を通し、大学の研究能力の向上が強調されてきた一方で、学生の質という点では連邦政府が期待するような質の高い人材が輩出されてきたとは言い難く、協調性やリーダーシップ、雇用者への寄与の欠如などは常に指摘されてきた²⁸。PPR はこうした労働市場の問題に対応するシステムとしても期待されているのである。

4. 考察

本論文では、UAE 大学における内部質保証の動向を取りあげたが、その特徴について二点指摘することができる。一点目は、高等教育機関もしくはプログラムの質について、大学として学生中心の学習成果を重視する方向へ移行しつつあることである。PPR 以前の内部質保証については、IEPSU が設定する KPIs をはじめとした指標をみたすことが求められているが、その達成について報奨や罰則等プログラムに対する影響が限定的であるためにそれほど重視されず、各プログラムにおいては専門ア kred i t e e s h i o n 団体による評価が重視されてきた。しかし、本論文で取りあげた PPR では内部質保証のプロセスの中で外部評価者を選定し、訪問調査を実施することで客観的な評価を行ない、それらの評価が行動計画の策定と進捗の監督を通して予算配分等に反映される点で、よりプログラムの実績と大学の措置との関係性が強化しつつあること、また各プログラムで質保証の取り組みに対して大きな裁量を与えられていた状況から、

表4: 湾岸諸国における質保証機関と国立大学への適用状況(2013年8月時点)

		UAE	サウジアラビア	バーレーン	カタール	オマーン	クウェート
国立大学数		3	25	1	1	1	1
第三者質保証機関	名称	CAA	NCAAA	QQA	SEC	OAAA	PUC
	設置年	1999	2006	2008	2012	1999	2001
	国立大学への評価	×	○	○	×	○	×
資格枠組み	資格枠組みの有無	あり	あり	2014年開始予定	2015年開始予定	あり	なし

出典: 各種資料より筆者作成

大学レベルでの統制が強くなりつつあると考えることができる。また PPR の実施が検討される以前は IEPSU による IR と、専門アクレディテーション団体による適格認定を通して国家へのアカウントビリティを果たすことが重視されていたが、PPR が QFEmirates を指標にして実施されることで、大学としてより学生の学習にも焦点を当てた質の保証が目指されている。

二点目は、UAE における国家レベルでの高等教育質保証の緩やかな統合への可能性を示していることである。アラブ地域では前述の ANQAHE によって各国の資格枠組みを統合したアラブ資格枠組み (Arab Qualifications Framework) を構築することで、高等教育の質を地域的に統合することが目指されている。上記の 6 ヶ国における第三者質保証機関は機関の設置とプログラムの提供に影響を与えるという共通の性質を持つが、UAE のように国家的な第三者質保証機関による評価を免除されてきた国立大学を有する国々も存在する。このような状況で、UAE の連邦立大学への資格枠組みの適用状況を周辺諸国の中に位置づけることは、中東湾岸地域における質保証の統合へのプロセスを観測する点で意義がある。国立大学への国家レベルでの資格枠組みの適用は表 4 の通り各国で異なっており、現段階では 3 つのタイプに分類されよう²⁹。それは①国家的な第三者質保証機関が形成され、国立大学にも資格枠組みを含めた評価が適用されている「統合型 (サウジアラビア、オマーン)」、②国家的な第三者質保証機関が設置されているが、資格枠組みが設定されていない「未開発型 (バーレーン、カタール、クウェート)」、③国家的な第三者質保証機関が設置され、資格枠組みも設定されているが、国立大学には適用されていない「分離型 (UAE)」の 3 形態である。UAE では民間高等教育機関が第三者質保証機関による設置認可・適格認定が義務づけられてきたことに対し、連邦立大学については国家レベルでの第三者質保証機関による評価が適用されず、独自の内部質保証システムを構築し、専門アクレディテーション団体による評価を積極的に取り入れることでその質を保証しようとしてきた。しかし、UAE 大学では新しい内部質保証の仕組みとして PPR を整備し、外部評価委員会を含めた評価チームの評価指標として QFEmirates を利用することで、学生に提供される学位の質を緩やかに統合しようとする「折衷型」が現れつつあることが見て取れる。以上の動向は、地域的に高等教育の質をどのように統合するかという課題に対し、国家の第三者質保証の例外としてみなされてきた国立大学を組み込む手段として、UAE 大学の事例は中東湾岸地域の高等教育の質の統合への一つのプロセスを示していると言えよう。

おわりに

本論文では UAE における連邦立大学の内部質保証について、UAE 大学の事例から質保証の構造と機能について考察した。UAE 大学ではガバナンスや予算等の点で国家との結びつきが強く、質保証も IEPSU が主に IR の機能を担う一方、プログラムにおける学習成果という点では

専門アクレディテーション団体による評価が重視されていた。現在では PPR を導入することにより、各プログラムがアクレディテーション団体による適格認定を重視しつつ、UAE 資格枠組みにおける学習成果を達成することを保障することが求められ、より学生に焦点を当てた内部質保証が構築されつつある。高等教育の質保証の方策として、資格枠組みは世界各地で構築されるようになっているが、中東湾岸地域における国立大学への適用は様々な形を示している。UAE では第三者質保証機関として CAA が設置され、資格枠組みも CAA を通して適用されるが、国立大学には適用されていない「分離型」から、PPR を通して資格枠組みを適用する「折衷型」へと移行してきている状況が見て取れた。

本論文の課題として、主に制度的側面を中心に分析を行なったため、質保証の実態まで踏み込むことができなかったことが挙げられる。PPR の適用が非常に最新の動向であるため、今後も UAE 大学の質保証の動向を継続して観察する必要があるだろう。また、中東湾岸地域の国立大学への資格枠組みの適用について類型化を試みたが、各国の国立大学への質保証の仕組みについて、どのような制度的特質や背景の違いがあるのかなどを踏まえて分析することができなかった。以上の点を踏まえ、UAE をはじめとした中東湾岸地域の国立大学の内部質保証の実態と特質について、より詳細に明らかにすることを今後の研究の課題としたい。

[註]

- 1 Darandari, E.Z. et al. "The Quality Assurance System for Post-Secondary Education in Saudi Arabia: A Comprehensive Developmental and Unified Approach." *Quality in Higher Education*, vol.15, no.1, Taylor & Francis, 2009, pp.39-50.
- 2 UAE の高等教育進学率について教育省や高等教育科学研究省、統計局などは公表していない。一方で高等教育在学者数の実数は公表されており、2012 年時点で 39,566 人（連邦立大学）、73,515 人（CAA）となっている（CAA Portal, <https://www.caa.ae/>, 2013 年 12 月 25 日取得）。
- 3 本論文では「首長国」との混同を避けるため、UAE で国家が設置した大学は「国立大学」ではなく「連邦立大学」とする。他の国の場合は「国立大学」として用語を統一する。
- 4 CAA のディレクターを務めている Badr Aboul-Ela 教授インタビュー（2013 年 3 月 27 日実施）および、後述の Ali S Ibrahim 教授インタビュー（2012 年 6 月 11 日実施）。
- 5 Khalaifat, A. *Higher Education in the United Arab Emirates: University of United Arab Emirates and its Development*, Ann Arbor: University Microfilm International, 1992.
- 6 Abbas, S.E. "The Historical Development of the Middle Eastern University: The Effect of the American Model in an Islamic Context" *Journal of Educational Administration and History*, vol.21, no.2, Leeds: University of Leeds, 1989, pp.46-54.
- 7 Accreditation Board for Engineering and Technology (ABET) はアメリカの専門アクレディテーション団体であり、工学、情報科学などの分野で国内・国際的に適格認定を行なっている。
- 8 Abu-Jdayil, B. and Al-Attar, H. "Curriculum Assessment as a Direct Tool in ABET Outcomes Assessment in a Chemical Engineering Programme" *European Journal of Engineering Education*, vol.35, no.5, Taylor & Francis, 2010, pp.489-505.
- 9 大学評価・学位授与機構『高等教育に関する質保証関係用語集 第三版』大学評価・学位授与機構、2011 年、33,43,83 頁。
- 10 「UAE 大学の設置と規則に関する連邦法（1976 年第 4 号）」アブダビ大統領宮殿、1976 年、

- 3-4頁(原文:القانون الاتحادي رقم (4) لسنة 1976م بإنشاء وتنظيم جامعة الإمارات العربية المتحدة)。
- 11 “History of the UAEU”, <https://www.uaeu.ac.ae/about/history/index.shtml>(2013年8月14日取得)。
 - 12 掘抜(2011)は国民マイノリティ国家を「国民国家において国民が全人口の中で少数派(おおよそ3分の1以下)となる状況にある国家」としている。国民マイノリティ国家への経緯は掘抜功二『アラブ首長国連邦における国家運営と社会変容:「国民マイノリティ国家」の形成と発展』京都大学大学院アジアアフリカ地域研究科2011年度博士論文、2011年に詳しい。
 - 13 前掲、アブダビ大統領宮殿、4、6頁。
 - 14 同上、4-6頁。および“United Arab Emirates University Council”, https://www.uaeu.ac.ae/about/university_council.shtml (2013年8月15日取得)。
 - 15 Daniel Bardsley, “UAE University aims for top of the table”, the National, <http://www.thenational.ae/news/uae-news/education/uae-university-aims-for-top-of-the-table> (2013年8月14日取得)。
 - 16 2008-2012 United Arab Emirates University Strategic Plan, United Arab Emirates University, 2008.
 - 17 Mission, Institutional Effectiveness and Planning Support Unit, 2012.
 - 18 Institutional Effectiveness Domains, Institutional Effectiveness and Planning Support Unit, 2012.
 - 19 Strategic Plan Indicator, Institutional Effectiveness and Planning Support Unit, 2010.
 - 20 Ali S Ibrahim 教授はUAE大学の教育学部の教授であり、2012年6月11日と2013年3月21日にUAE大学にてインタビューを実施した。Ramzan Ali Afzal氏はIEPSUの統計処理担当であり、同じく2013年3月21日にUAE大学にてインタビューを実施した。
 - 21 実際にこのような傾向は、UAE大学が国際的に活動している専門アクレディテーション団体よりどれだけ適格認定を受けているかに表れている。教育学部では9のプログラムがCQAIE (Center for Quality Assurance in International Education) より、経済・経営学部では7のプログラムがAACSB (Association to Advance Collegiate Schools of Business) より、工学部・情報科学部では14のプログラムがABETより適格認定を受けている。
 - 22 Transforming the UAEU, United Arab Emirates University, 2009, pp.32-33.
 - 23 Periodic Program Review at UAEU; Draft 6, Academic Quality Assurance Office, 2013, pp.1-3.
 - 24 Ibid., pp.3-5.
 - 25 Ibid., pp.6-12.
 - 26 職業能力開発総合大学校『欧州教育訓練政策重要用語集』(欧州職業訓練開発センター(CEDEFOP)発行日本語版、2011年、75頁)。
 - 27 Qualification Framework Emirates Handbook, National Qualification Authority, 2012, p.97.
 - 28 United Arab Emirates University, 2009, *op. cit.*, p.6.
 - 29 質保証機関の略称は以下の通り。NACAA (National Commission for Academic Accreditation & Assessment), QQA (Quality Assurance Authority), SEC (Supreme Education Council), OAAA (Oman Academic Accreditation Authority), PUC (Private Universities Council)。表の作成に当たっては、Requirements for Oman's System of Quality Assurance in Higher Education, Oman Academic Accreditation Authority, 2004.と National Qualifications Framework for Higher Education in the Kingdom of Saudi Arabia, National Commission for Academic Accreditation & Assessment, 2009.と A National Qualifications Framework for Qatar: Final Report, Centre for Post-14 Research and Innovation (Institute of Education, University of London), 2013.を参考にした。

(日本学術振興会特別研究員 比較教育政策学講座 博士後期課程1回生)
(受稿2013年9月2日、改稿2013年11月28日、受理2014年1月16日)

Internal Quality Assurance of Federal Universities in the United Arab Emirates: A Case Study of the United Arab Emirates University

NAKAJIMA Yusuke

In the Middle East region, the higher education sector has been extended rapidly and the importance of quality assurance institutions has been increasingly recognized. In many countries, external quality assurance authorities have been established to assess the quality of higher education institutions. In this stream, in the United Arab Emirates (UAE), Commission for Academic Accreditation (CAA) was established in 1999 for the purpose of licensing institutions and accrediting programs. However, federal universities are not subject to the accreditation by CAA and construct their own quality assurance systems. This paper discusses the development of quality assurance in the United Arab Emirates University (UAEU), the university established for the first time in UAE, as a case of a federal university. As a result of analysis, while UAEU established Institutional Effectiveness and Planning Support Unit (IEPSU) for Institutional Research of UAEU, each program thinks highly of accreditation from international professional accreditation organizations because of their reputation. And in 2013, the implementation of Periodic Program Review (PPR) is discussed and intended for the university to assess the quality of each program along the standards of learning outcomes in Qualification Framework Emirates (QFEmirates), a qualifications framework developed as a device to integrate the quality of post-secondary education. This shows the movement from autonomy of each program and faculty to integration of quality at the university level and soft integration of the quality of higher education in UAE through QFEmirates.